

CONTENTS

特集

ベトナム空中戦
ジャングルのナイトウオッチャー

GUNSHIP AC-47

ガンシップAC-47



004 Offering Vietnam

兵士たちへの鎮魂歌

構成/Mikako Burks (PPI)

024 第10回サイゴン物語 Saigon Memories

Mekong Delta Waterways
水の王国メコンデルタに行く。

「所さんの世田谷ベース」

050 世田谷ベース
シューティング大会

057 月刊 THE グリーンベレー
GREEN BERET
IRAQ2009 ●文と写真/DJちゅう

東京マルイ製品リポート ●By Ken NOZAWA

062 V10 ULTRA
COMPACT & HK45
Tactical BLACK

The Equipments of the U.S. Force

068 [現用米軍装備カタログ]
'90年代特殊部隊装備特集SOE Part4

078 ニッポンの力こぶ
Central Readiness Regiment
中央即応連隊 ●写真と文/菊池雅之

082 シン・サバゲ三等兵 NAM熱波襲来!
『PARADOX』ナム戦尽くしの定例会 ●写真と文/繪本知之

086 Militaria Roundup!
WWI ドイツ帝国陸軍の軍装 Part3

WESTERN ARMS
093 COLT M1991A1 COMPACT
HEAT CUSTOM

098 トイガンニュース
●WA ベレッタM92FSイノックス・ソルト
●WA スネーク・マッチ1911
●マルゼン フルサー P99 FS スペシャルフォース
●タナカ 四四式騎兵銃 Ver.2 GRAY STEEL FINISH
●タナカ SIG P220 IC 陸上自衛隊 HW
●タナカ S&W M19 2.5インチ・コンバット・マグナム (HW バージョン3)
●タナカ グロック17 2nd.ジェネレーションEVO2 (フレームHW)

躍進するトルコの防衛産業
102 IDEF 2019

107 葉隠訓練&葉隠マッチ2019 [前編]

COMBAT FRONT LINE

047 祝! 続編公開記念!
『アイアン・スカイ 第三帝国の逆襲』監督インタビュー

049 第1回 広島県三原佐木島サバイバルゲーム大会開催

096 新製品てんこ盛り! COMBAT mono

112 サバゲ三等兵APS部 本大会直前SP JASGさんに突撃取材!

114 コラム ベトナムを遠く離れて——。文/小倉徹

115 ゲームOTT『ライオン・マークス リベンジミッション』

116 USシューティングライフ

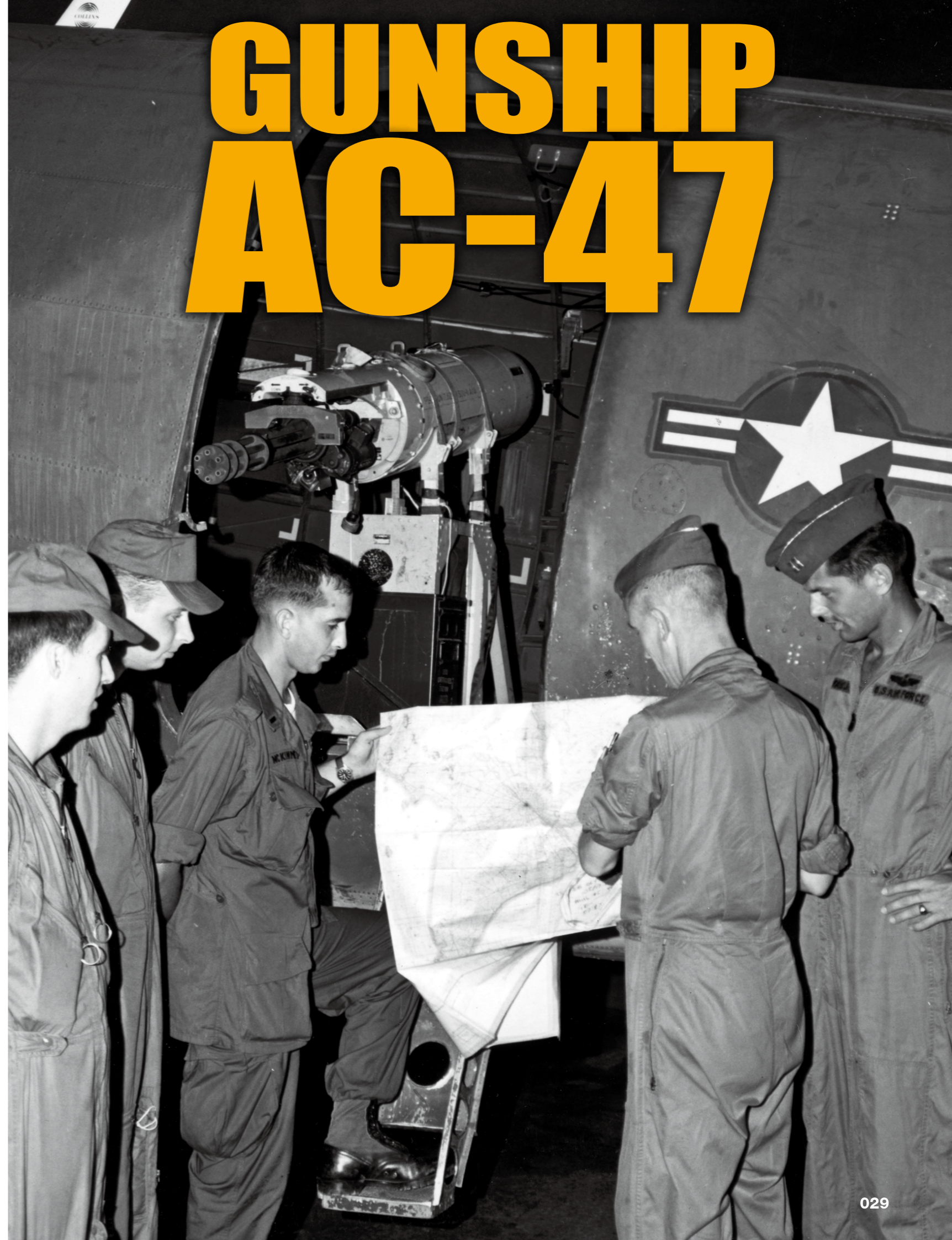
124 PRESENT

125 CIC

126 バックナンバー

127 奥付&次号予告

GUNSHIP AC-47



GUNSHIP AC-47

ベトナム空中戦 ジャングルの ナイトウオッチャー ガンシップ AC-47

ガンシップ=GUNSHIPとは、ベトナム戦争さ中の1964年頃までは前方発射式の重武装を備えた戦闘ヘリコプターのことであった。それが本項のテーマである、AC-47をはじめとする側面に重武装を集中装備し、混乱した戦域でも高精度で射撃できる固定翼輸送機改造の攻撃機が取って代わったのはベトナムのような戦場ではこうした機体が有用であることを粘り強く上層部へ訴え続け実現させた、わずか数名のアメリカ空軍士官・下士官の“慧眼”による結果であった。これは、旧型輸送機から重攻撃機へと“華麗なる変身”を遂げたAC-47“スプーキー”のシンデレラストーリーである。

解説／長久保秀樹 構成／三井一郎(航空ファン編集長)

左旋回するAC-47Dが、後部胴体の左側面に集中装備した3基のSUU-11A/Aミニガンを上層の目標に向けて一斉射撃する。小口径の7.62mmとはいえ、ファイアサブレッサーを取り付けていないため、発射炎が凄まじい。扉ページ(P.29)は1966年11月、戦域図を広げミッション前の打ち合わせを行なうAC-47クルー。右2名はパイロット、左の3名が射手だろう。



Offering Vietnam

兵士たちへの鎮魂歌

構成 / Mikako Burks (PPI)

Courtesy of the National Mall and Memorial Parks, NPS



Photo/Shutterstock.com

ワシントンD.C.のベトナム戦争戦没者慰霊碑、通称「ザ・ウォール(壁)」。

ベトナム戦争で犠牲になった米軍兵士58,000人以上の名前を刻んだ全長75メートルの壁は、厳肅な雰囲気がある独特な観光スポットだ。

懐かしい名前を見つけると、人々は遠い昔の思い出を手繰り寄せるかのようにゆっくりと一文字ずつ指でたどる。

語りつくせぬ思いを大切な品に託して捧げると、壁の前で無言の鎮魂歌が奏でられる。



Photo/Shutterstock.com



幼い頃のお気に入りJohn Johnの刺繍とスヌーピーのバッチ付きタイガーストライプのブーニーハット。タイのウドンターニー駐屯の陸軍諜報活動員だったのだろうか。

反対側にはUDORN THAILAND 69-70の刺繍も。

サイゴン物語 Saigon Memories

水の王国メコンデルタに行く。 Mekong Delta Waterways

デルタに生きる人びとは、夜明け前から野菜や果物を舟に山と積んで水上マーケットに集合する。舟は看板代わりに、竿の先にカボチャやスイカ、パイナップルがつるしている。観光の目玉になった水上マーケットは、戦争中だってやっていたはず。そうでなければ生きられない。今、デルタの新顔は、対テロ組織犯罪に対応できるモバイル警察CSCDの存在だ。

文/コンバットマガジン編集部 Text/CM Editorial Staff
写真/今井今朝春、WPPコレクション Photo/Kesaharu Imai, WPP Collection



ベトナムの南部一帯は、9頭の龍がのたうち、広大なデルタ地帯をつくりあげた水の王国。熱帯ジャングルが頭上をおおい、その下には細かな水路が縦横無尽に流れている。ベトナム戦争中のアメリカは、この発達した水路を知り抜いた敵のゲリラ攻撃に翻弄された。対抗する手段として、アメリカ軍が水に浮かべたのがブラウンウォーターネービーだった。河川哨戒艇が、水路から敵が潜むジャングルを焼き払った。敵を探してからつぶすのではなく、恐怖に駆られたかのように、火炎放射した。まるで手当たり次第に焼き払う。これがジッポー作戦だった。

あの戦争から茫茫と時がすぎても、変わらないのは水路によって生かされているデルタの人びとだ。彼らは夜明け前から舟に農産物や果物を山と積み上げて、水上マーケットに集合する。それぞれの舟には、竿の先にカボチャやスイカ、パイナップルがつるされている。これは、舟に何を積んでいるのかを示す看板だ。水上マーケットには、働く人たちの胃袋を満たすために食事舟も出る。水の上にはコンビ二舟もあれば、カフェ舟も浮かび、向こうからこぎ寄せてくる。デルタでは毎朝、こうした光景が繰り返されている。これがデルタの生きる道なのだから、戦争中もそうだったはずだ。

今と昔がちがうのは、デルタの水上シーン見たさに、観光客が集まってくるころだ。ベトナムの人はニーズに敏感だ。ホーチミン市の旅行会社では、デルタ巡りをジャングルクルーズと呼んで集客している。

デルタの新顔はまだいる。迷彩柄でペイントされたCANH SAT CO DONGである。この船はベトナムのモバイル警察のものだ。CSCDの正体は、テロに対応する特殊部隊である。陸上にいる時は、彼らは全身ブラックの制服に身を包み、防弾チョッキとヘルメットをかぶっている。必要に応じて盾を手にし、アサルトライフルで装備をかためる。行動規範はほぼ軍隊に準じるとされている。対応するのは組織犯罪と時間が鍵を握る誘拐事件、そしてテロ行為である。法執行機関ではあるが、街中で彼らの姿を見ることはまれだ。デルタでも、この迷彩船に乗り組んでいる隊員の姿は見ることはできなかった。

デルタでも大きな流れのカントー川に浮かぶ鋼鉄製の船。木造やセメントの平底船のなかでは、とにかく目を引く。本気の迷彩塗装に緊張が走る。共産党一党支配のベトナムという国は、底知れない部分を抱えている。戦争の話は、皆、見えない目を気にしているのか、だれも口にしようとはしない。とくに外国の人間には、ガードが固くなる。



東京マルイからV10が発売される…という情報は同社HPを中心に広まり、私も以前から気になっていた。何が気になっていたかという「どういう理由でV10を選定し、モデルアップすることにしたのか」の部分だ。もちろん、日本

知名度の割に実力の方はあまり知られていない(と、感じる)ため、最初に実銃のV10の話から始めたいのだ。それを知ってもらえれば、東京マルイがV10をモデルアップした理由にも迫れると思うからね。

売したのは1996年だった。3.5インチの短銃身で、スライドもフレームも小さくなって携帯性に優れていることは一目瞭然だ。さらに、何より目を引くのはザックリと削り取られたスライド上面の2つのスリットだね。

様々な射撃競技がスタートしている。もちろん、ず～と前からブルズアイ(精密射撃)やシングルアクションリボルバーを使っのファストドロウ(早撃ち)は行なわれていたけど、それらとは別の競技だよ。

での知名度や人気の高さから決定されたと言われれば、それはそれで正しいと思うんだけど、正直、V10には派手さはないし、最新のモデルとも言いがたい。実銃のV10が米国のスプリングフィールドアーモリー社から発売されたのは1996年のことなので、もう23年も前になる。ここで東京

大口径のコンパクトピストルを代表するV10ウルトラコンパクト。派手さはないけど、操作性も操作性もピカイチ!

元々はポリスたちの射撃技術向上が目的だったりしたものが、一般のガンファンや射撃ファンへも広がりを見せると「スポーツ」としての地位を確立したわけだ。

元々はポリスたちの射撃技術向上が目的だったりしたものが、一般のガンファンや射撃ファンへも広がりを見せると「スポーツ」としての地位を確立したわけだ。

V10 ULTRA COMPACT
●全長:未定 ●重量:未定
●装弾数:22発 ●価格:未定

東京マルイ 新製品リポート

●Report by KEN NOZAWA
●撮影協力:東京サバゲパーク ☎0476-48-5215 <http://tokyosabagepark.jp/> フォリッジグリーン ときがわ ☎0493-81-7244 <http://foliagegreen.web.fc2.com/>

V10 ULTRA COMPACT

5月に行なわれた、模型最大の見本市、静岡ホビーショー。当然ながら、東京マルイも出展し、注目の最新モデルが発表された。注目の最新モデル2挺をピックアップし紹介しよう。



トリガーに開けられた3つの穴はトリガーブルを軽くするときに意味を持つ。でも、セルフディフェンス用だと、そこまで軽くはしないよね。

射撃競技の隆盛とカスタムガン

スプリングフィールドアーモリー社の45口径のセルフディフェンスピストルのV10ウルトラコンパクトを発売

大口径のマズルフェイスは迫力があるね。バレルブッシングはなく、バレルそのものがスライド内側にフィットする仕様だ。

そして、スリットから覗き込むと銃身には1列に5個の穴。それが二列あるため計10個の穴が開けられたデザインだと分かる。もちろん、トリガー、ハンマー、マニュアルセフティなども操作性と機能性を十分に考えた仕様・形状であって、登場時「目的意識を強く感じさせるガン」として米国のガンファンたちに衝撃を与えたのだ。

長年、セルフディフェンス用のガンと言えば小型ピストルや中型ピストルが主役だった(携帯性が高いから)けれど、1990年代に入ってからは、45口径のピストルが台頭するようになったのだ。台頭してきた理由を詳しく説明するためには時間をさらに戻して、1960年代まで振り返る必要がある。「V10」の背景を知る話なので、どうか付き合っ聞いておくれ。米国では1960年代に入ったころか

で、1976年代には「.45 (=フォーティファイブ)の神様」と謳われたジェフ・クーパーを中心として、「コンパクトシューティング」と称される射撃競技が誕生した。パワーとスピードと精度を追求した実戦的な射撃競技という括りのため、コンパクト(=戦闘)シューティングというわけで、それが現在、世界中に広がっているIPSCだ。さてさて。

スタートしたばかりのコンパクトシューティング競技(IPSC、その他)はストックガン(メーカーが販売した状態のいわゆるノーマルモデル)で撃つのが当たり前という風潮があったものの、競技(=試合)として広まると「少しでも優位に戦いたい!」とい



チェンバー部分の刻印は賑やかで、実銃の雰囲気が漂うのていい。マルイではレーザー刻印で再現している。

う願いから、より集弾性能を高めたり、トリガーブルを軽くしたり、的を狙いやすいサイトを取り付けたりといった加工(=カスタマイズ)が始まり、1980年代に射撃競技用のガンは大きく発展することになったのだ。

射撃競技用のカスタムガンは1980年代に急速に発展し1990年代に入ったころには完成の域に達していた。そこで、先述したように、数々のノウハウはいろいろな分野のガンに活かされ、セルフディフェンスピストル界にも大きな影響を与えることになったわけだ。そして、45口径セルフディフェンスピストルの開発が加速された。

ちなみに、ここで書いている「ノウハウ」というのは、ガンの作動性能の向上、集弾性能のアップ、操作性の改善などだね。

ここでやっと、本題のV10だよ。

いがマズルジャンプを抑える働きを持つというのは、ガンに詳しくなくても想像しやすいよね。

実は、銃身に穴を開けたり銃身先端に別パーツを取り付け、ガスを上方へ放出してマズルジャンプを抑えるという発想はず～と昔からあるけど、ハンドガンで活用するという考えは射撃競技用カスタムガンの世界で発達したノウハウのひとつだ。

10個の穴が開けられたV10のバレルはコーンバレル(=円錐形バレル)と呼ばれる仕様で、バレルの先端部分が太くなっている。そのコーンバレルの一番のメリットは集弾性と作動性の両方を維持できることにある。実銃の場合、1911系ピストルの場合、スライド先端でバレルを保持するバレルブッシングとバレルとのクリアランスを小さくすると、集弾性能は高められるものの作動性は下がるという弱点がある。バレルが短い場合、さらにその傾向は大きくなってしま

で、言うまでもなくV10は、いざというときに命を託すセルフディフェンス用ピストルだ。1発目は発射したもののジャム(作動不良)で2発

のはバレルだけではなくて、その他のパーツにも多くのノウハウが盛り込まれているのだ。よ～し。それらを確認していこう!

セルフディフェンスガンならではのデザイン

V10には、バレルと同じく穴が開けられたパーツがある。トリガーだ。こっちは3つの穴が見られる。でも、この穴って何のためにあるんだ? 反動を抑えるってことはない。そこは初心者でも間違えない。では何のためだ? デザイン優先??

これはシューターたちにはよく知られた話で、トリガーブルを軽くするため。正確には、トリガーブルを軽くするべく、スプリング、その他のパーツを交換・加工したとき、射撃時の衝撃(反動)での暴発を防ぐためだ。詳しく書くよ。

トリガーブルというのは、軽くしていくとどこまでも軽くできる。ウンと軽くできる。その状態で射撃を行なうと、場合によってはトリガーを引かないのにハンマーが倒れ、弾丸が発射してしまうことがあるのだ。それ

体の軽量化があるのだ。軽量化で手取り早いのは「肉抜き加工」だからね、穴を開けるのはよいアイデアなのだ。もちろん、見た目にもカッコいい。

そんなトリガーと同じくらいか、それ以上に洗練されているのがV10のハンマーだ。そこに目をやると、またまた穴が開けられている。角が丸



スライドを引くと5個ずつ並んだVポートがハッキリ見える。1つ1つの穴は小さいけど、反動を抑えるのに役立つ。

セルフディフェンス・ガンのあるべき姿 その思いが名作“V10”を誕生させた

衝撃を持って迎えられたV10ウルトラコンパクト

「V10ウルトラコンパクト」という名称は、そのデザインからきている。コルトガバメントモデルを筆頭に、1911系ピストルは5インチバレルと装弾数7発(.45ACP口径)を有するデザインが基本となり、大型ピストルの存在感がある。対して、V10ウルトラコンパクトは3.5インチバレルで装弾数は6発だ。そのため、誰の目にもハッキリとコンパクトであることが分かる。ウルトラコンパクト(=極端にコンパクト)だ。

ところで「V10」ってなんだ? V10の「10」は銃身に開けられた10個の穴が由来だ。「V」は射撃時にシューターから見たマズルフラッシュ(正確には10個の穴から上部に噴出す炎)が「V」の字になることから付けられている。穴から噴出すガスというか炎は大きくて、その噴出の勢

目は撃てませんでした…は、あってはならない。そこでコーンバレルの採用だ。そうそう、同じくコンパクトピストルで有名なデトニクスもコーンバレルを採用しているよね。

V10のバレルはマズルジャンプを抑え、集弾性を高め、それでいて重要な作動性能も高めていると分かったと思うけど、V10で優れている

穴を開けられたハンマーにも、大きく延長されたグリップセフティにも、そして伸ばされたサムセフティにも、それぞれ重要な意味があるのだ。

は、射撃時の衝撃でガンが勢よく揺さぶられると、そのショックでトリガーも揺さぶられるため、シアを押してしまうことがあるからだ。通常の、ノーマルのガンでは無いけど、トリガーブルを軽くすると、そういうトラブルが発生する可能性が高まる。

そこで、トリガーブルを軽くしながらも暴発を防ぐ案として、トリガー自

1911系ピストルはここから見た絵がカッコよくて好きだ。新造されたパーツばかりで、文字通りの新顔となる。

まった三角形の穴が開けられている。この穴の目的はなんだ? 見た目がカッコいいからか?

いやいや。トリガー同様、こっちは射撃競技用カスタムガンからのノウハウ伝授で、実は、ミスファイアの低減と集弾性能の向上が目的なのだ。軽量化されたハンマーはダウンスピードを増しながらもガン本体に与える衝撃は小さくできるため、ミスファイアを減らし、集弾性能は高められる。カスタムリボルバーでのハンマーの加工(デホーンド加工)も同じ理由からだ。で、ここで、コーンバレルと同じくV10の作動性をアップさせる仕様のひとつ、リコイルスプリングガイドに話を移そう。

リコイルスプリングは射撃の反動で後退したスライドを前進させる役割を持つ。前進させる際マガジン最上段の弾をチェンバーへ送り込む。その動きを無駄なく、無理なく行なうにはスプリングの性能を十二分に発揮させればいい。つまりはスプリングのたわみ(……)をなくすべく



写真・文 / 菊池雅之

管轄エリアは地球の上すべて!?

中

中央即応連隊

Central Readiness Regiment

2008年に新編された海外展開を前提とした部隊、それが中央即応連隊だ。海外での活動実績はもちろん、国内の災害派遣における活躍でも知られる部隊でもある。2018年3月、陸上総隊直轄部隊となり、それに伴って拡大改編された“中即連”。その新たなスタートに注目しよう。



第10次派遣海賊対処行動支援隊 (DGPE) として、ジブチに設けられた拠点の警備等を行なう中央即応連隊。現在、指揮官は第10次隊と変わらず、部隊のみ中央即応連隊から第16普通科連隊を基幹とした第11次隊へと引き継いでいる。